

受領No.1569

縮小史観からみた日本鉄道史の再構成

代表研究者 三木 理史 奈良大学 文学部 教授

Historical review of railways in Japan from the viewpoint of scale-down

Representative MIKI Masafumi, Faculty of Letters Nara University, professor



研究概要

本研究の目的は、約 150 年間の鉄軌道休廃止を通じ日本鉄道史を「縮小」史観から再構成することにある。その際地域交通の〔課題 A〕利用減少による持続可能性との関係、〔課題 B〕輸送技術変革に伴う設備更新との関係、の 2 つが論点である。これまでの日本鉄道史に関わる研究の多くは、発展・拡大史観にもとづくものであり、近年全国的に鉄軌道の休廃止が取り沙汰されるなかでも、その主潮自体に変化は見られない。その点を踏まえて本研究では、〔課題 A〕は現代の鉄道休廃止に関する先行研究の認識に通底する自治体を含む利用者側の論理に加えて、事業者側の休廃止の意思決定過程にも注目する。他方〔課題 B〕は、休廃止を利用減少の結果と見るのではなく、輸送需要に即した技術選択の結果として考察しようとするものである。これら 2 つの課題を、特に本研究では近年整備の進んだ公文書公開制度を活用し、地方自治体の公文書の利用によって解明する。そして、一見「拡大」あるいは「進歩」が継続しているかに見える社会現象を相対化できる「縮小史観」の有効性を示すことも意図したい。